

礼拝メッセージフィードバック

今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をあがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

ディーゴ ガイド



2023.11.27-12.3

BUT GROW IN THE GRACE AND KNOWLEDGE OF OUR
LORD AND SAVIOR JESUS CHRIST. TO HIM BE
GLORY BOTH NOW AND FOREVER! AMEN. II PETER

LTG ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

➤ 27日 月曜

ゼパニヤ

1:14 【主】の大きい日は近い。それは近く、すぐにも来る。【主】の日に声がある。勇士の悲痛な叫び声か。

1:15 その日は激しい怒りの日、苦難と苦悩の日、荒廃と滅亡の日、闇と暗黒の日、雲と暗闇の日、

1:16 角笛と、ときの声の日、城壁のある町々と高い四隅の塔が襲われる日だ。

1:17 「わたしが人を苦しめるので、人々は目の見えない人のように歩く。【主】に対して罪を犯したからだ。彼らの血は、ちりのように、はらわたは、糞のようにまき散らされる。1:18 彼らの銀も、彼らの金も、【主】の激しい怒りの日に彼らを救い出せない。主のねたみの火で、全土は焼き払われる。主が地に住むすべての人をたちまちのうちに滅ぼし尽くすからだ。」

2:1 とともに集まれ、集まれ。恥知らずの国民よ。

2:2 御定めが行われて、その日が粉殻のように過ぎ去らないうちに。【主】の燃える怒りが、まだあなたがたを襲わないうちに。

【主】の怒りの日が、まだあなたがたを襲わないうちに。

2:3 すべてこの国の、主のさばきを行う柔和な者たちよ、【主】を尋ね求めよ。義を尋ね求めよ。柔和さを尋ね求めよ。そうすれば、【主】の怒りの日に、かくまってもらえるかもしれない。

主のさばきの恐ろしい様子がここに表されています。「わたしは人を苦しめ…」とありますが、実際には、苦しめたの敵の軍隊であって人です。しかしユダヤの表現では、すべてのことは主の主権の中で



起きることなので、主を主語とします。

考えようによっては、主がこれら残忍な敵を止めなかったという意味で、主のみこころとして行われたという見方ができるでしょう。

いずれにしても主が止めてくださらなければ、私たちは「苦難と苦悩の日、荒廃と滅亡の日、やみと暗黒の日、雲と暗やみの日」しかないような、弱いものなのです。それを忘れないようにしましょう。それを忘れたところに、ユダヤの高ぶりと不従順、そしてさばきがあったのです。

「この国のすべてのへりくだる者よ。主を尋ね求めよ。義を求めよ。柔和を求めよ。」とは、私たちへの呼びかけです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



28日 火曜

ぜパニヤ

2:4 まことに、ガザは捨てられ、アシュケロンは荒れ果てる。アシュドデは真昼に追い払われ、エクロンは根こそぎにされる。

2:5 わざわいだ、海辺に住む者たち、クレタ人の国。【主】のことはおまえたちに向けられている。「ベリシテ人の地、カナンよ。わたしはおまえを消し去って、住む者がいないようにする。」

2:6 海辺よ。おまえは牧場となり、牧者たちの牧草地となり、羊の囲い場となる。

2:7 海辺はユダの家の残りの者の所有となる。彼らは海辺で羊を飼ひ、日が暮れると、アシュケロンの家々に横になる。彼らの神、

【主】が彼らを顧みて、彼らを元どおりにされるからだ。

2:8 「わたしはモアブのそしりと、アンモン人の、ののしりを聞いた。彼らはわたしの民をそしり、自分の領土のことで高ぶった。

2:9 わたしは生きています。——イスラエルの神、万軍の【主】のことは——それゆえ、モアブは必ずソドムのようになり、アンモン人はゴモラのようになり、いらくさの茂る所、塩の穴、とこしえに荒れ果てた地となる。わたしの民の残りの者が、そこをかすめ奪う。わたしの国民の生き残りが、そこを受け継ぐ。」

2:10 これは彼らの高慢のためだ。彼らが万軍の【主】の民をそしり、これに向かって高ぶったからだ。

2:11 【主】への恐れが彼らに下る。主が地のすべての神々を消し去られるからだ。人々はそれぞれ、自分のところで主を礼拝する。異国のすべての島々も。



2:12 「あなたがた、クシュ人も、わたしの剣で刺し殺される。」

2:13 主は手を北に向けて伸ばし、アッシリアを滅ぼし、ニネベを荒れ果てた地とし、荒野のようにし、砂漠とされる。

2:14 その中に、獣の群れが、あらゆる地の獣が伏す。ふくろうと針ねずみは、その柱頭をねぐらとし、その鳴き声は窓に響き渡り、荒廃は敷居に及ぶ。まことに、その杉材か?がされる。

2:15 これが、安心して過ごし、「私だけは特別だ」と心の中で言っていた、あのおごった都だ。ああ、その都は荒れ果て、動物の伏す所となる。そこを通り過ぎる者はみな、嘲って手を振る。

「ベリシテ人の国カナン」は全くの異教の敵であって、終始イスラエルを苦しめました。

「モアブのそしりと、アモン人のののしり…」とありますが、これらの民族はアブラハムの甥であるロトの子孫です。イスラエルに近いものでありながら、イスラエルの「領土に向かって」高ぶり、問題を起こしたのです。

「アッシリヤ」は強大な王国で、「私だけは特別だ。」という大国意識で、侵略と拡大を続けました。

しかし、これらの国々は全て、主の前に滅ぼされたのです。神様の守りがなくしては生きられないのは、不信者であっても同じです。私たちが違うのは、必ず主に立ち返ることができるように、新しく生まれて神の子となっているという点だけです。しかしこれが決定的なことで、イスラエルはたびたび主に立ち返り、今もその国は続いています。

主はこのような事実から、人類にご自身に立ち返るようにと求めておられます。またイスラエルが、国家としての存続だけではなく、主イエスの

永遠のいのちとしての救いを受けるように願っておられます。

世界の歴史に現れた神様のみわざを覚えて、主の主権を認め、恐れつつも信頼し、安心しましょう。主に従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 29日 水曜

ゼパニヤ



3:1 わざわいだ、反逆と汚れに満ちた暴虐の都。

3:2 呼びかけを聞こうともせず、戒めを受け入れようともせず、【主】に拠り頼まず、神に近ぶこうともしない。

3:3 その都の高官たちは都の中で吼えたいける雄獅子。その都をさばく者たちは夕暮れの狼。朝まで骨をかじってはいない。

3:4 預言者たちは、ふしだらで裏切る者。祭司たちは聖なるものを冒して、みおしえを冒す。

3:5 【主】は、そのただ中であって正しく、決して不正を行われぬ。ご自分の公正を、朝ごとにくまなく照らす光とされる。しかし、不正を働く者は恥を知らない。

3:6 「わたしは諸国の民を断ち切った。その四隅の塔は荒れ果てた。わたしは彼らの通りを廃墟とした。通り過ぎる者はだれもいない。彼らの町々は荒れすたれた。人は一人もおらず、住む者もない。

3:7 わたしは言った、『あなたはただ、わたしを恐れ、戒めを受け入れよ。そうすれば、わたしがこの都をどれほど罰しても、その住まいは断ち切られない。確かに彼らは、繰り返してあらゆる悪事を行ったが。』

3:8 それゆえ、わたしを待て。——【主】のことば——わたしが証人として立つ日を待て。わたしは諸国の民を集め、もろもろの王国をかき集め、わたしの激しい憤りと燃える怒りをことごとく彼らに注いで、わたしのさばきを下すからだ。全地は、わたしのねたみの火で焼き尽くされる。

れはエルサレムの不信仰とその社会的墮落が告発されています。神に従わない社会は、本来正しくあるべき人々さえも、獅子や狼のように、横暴なものになってしまうのです。このような社会はもう救いようがありません。

そのような人々に対して主は、「わたしは諸国の民を断ち滅ぼした。」と、そのさばきを教えて、警告を与えておられます。その警告は、主に立ち返るためであり、同じようなさばきが下されないためです。

主の警告や叱責に耳を傾けましょう。それは私たちが、みこころに叶ったものとなり、幸いを得るためです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



30日 木曜

ゼパニヤ

3:9 そのとき、わたしは諸国の民の唇を変えて清くする。彼らはみな【主】の御名を呼び求め、一つになって主に仕える。

3:10 クシュの川の向こうから、わたしに願う事をする者、わたしに散らされた者たちがわたしへの贈り物を携えて来る。

3:11 その日、あなたはわたしに背いて行ったすべての行いのことで、恥を見ることはない。そのとき、わたしがあなたのただ中から、おごり高ぶる子どもを取り除くからだ。あなたはわたしの聖なる山で、二度と高ぶることはない。

3:12 わたしはあなたのただ中に、へりくだった、貧しい民を残す。彼らは【主】の名に身を避ける。

3:13 イスラエルの残りの者は不正を行わず、偽りを言わない。その口の中に欺きの舌は見つからない。まことに彼らは草を食べて伏す。彼らを脅かす者はいない。」

3:14 娘シオンよ、喜び歌え。イスラエルよ、喜び叫べ。娘エルサレムよ、心の底から喜び躍れ。

3:15 【主】はあなたへのさばきを取り除き、あなたの敵を追い払われた。イスラエルの王、【主】は、あなたのただ中におられる。あなたはもう、わざわざを恐れることはない。

3:16 その日、エルサレムは次のように言われる。「シオンよ、恐れるな。気力を失うな。

3:17 あなたの神、【主】は、あなたのただ中であって救いの勇士だ。主はあなたのことを大いに喜び、その愛によってあなたに安らぎを与え、高らかに歌ってあなたのことを喜ばれる」と。



3:18 「例祭から離れて悲しむ者たちをわたしは集める。彼らはあなたから離れていた。そしりがシオンへの重荷であった。

3:19 見よ。わたしはそのとき、あなたを苦しめたすべての者を罰する。わたしは足を引きずる者を救い、散らされた者を集め、彼らの恥を全地で榮譽ある名に変える。

3:20 そのとき、わたしはあなたがたを連れ帰る。そのとき、わたしはあなたがたを集める。まことに、あなたがたの目の前でわたしがあなたがたを元どりにするとき、わたしは、地のあらゆる民の間であなたがたに榮譽ある名を与える。——【主】は言われる。」

14 節から「イスラエルよ。喜び叫べ。」とあるように、最後はイスラエルへの祝福で終わっています。ただし、それは「あなたのうちに、へりくだった、寄るべのない民を残す。」とあるように、イスラエルが悔い改めて主に従うことが大前提となっています。

私たちは主に祝福や解決、また癒しや恵を求めますが、それらはすべて主への従順が前提でなければなりません。従わない者が、これでいいのだと勝手なままでは、この書にあるような暴虐の町が生まれてしまいます。

主のさばきについても忘れないで、そこから救われていることを感謝し、また主の懲らしめについても警戒して、そこから学んで従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 1日 金曜

コロサイ



1:1 神のみこころによるキリスト・イエスの使徒パウロと、兄弟テモテから、
1:2 コロサイにいる聖徒たち、キリストにある忠実な兄弟たちへ。私たちの父なる神から、恵みと平安があなたがたにありますように。

1:3 私たちは、あなたがたのことを祈るときにいつも、私たちの主イエス・キリストの父なる神に感謝しています。

1:4 キリスト・イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対してあなたがたが抱いている愛について聞いたからです。

1:5 それらは、あなたがたのために天に蓄えられている望みに基づくもので、あなたがたはこの望みのことを、あなたがたに届いた福音の真理のこぼれによって聞きました。

1:6 この福音は、あなたがたが神の恵みを聞いて本当に理解したとき以来、世界中で起こっているように、あなたがたの間でも実を結び成長しています。

1:7 そういうものとして、あなたがたは私たちの同労のしもべ、愛するエパfrasから福音を学びました。彼は、あなたがたのためにキリストに忠実に仕える者であり、

1:8 御霊によるあなたがたの愛を、私たちに知らせてくれた人です。

コロサイ人への手紙は、パウロがその教会の信仰を守るためにと書かれたものです。そのため教会の頭であるキリストの、神としての卓越性が強調されています。コロサイの教会はおそらくエパfrasの働きによって開拓された群れで、パウロはそこに訪れたことはないようですが、その人々を愛して「祈るときにいつも」と、常に祈りのうちに覚えていたようです。神の働きは、組織や計画に先立って、人

を愛することから、そして祈りから始まるのだと教えられます。

コロサイ教会の人々の「信仰と...愛」はパウロの耳にまで届くほどであったようです。そしてその根底をなすものは「天に備えられている望み」であり、「福音」の「成長」であるということです。つまり福音についてよく知り、そして福音に従って行動するということでしょう。

このように私たちクリスチャンの愛の行いは、義務として頑張る達成するよりも、むしろ「望み」を抱いて、わくわくするような喜びの思いでなされるものなのです。（もちろん旧約の預言者や、殉教者のように苦しみの中で、主に従うという場合もあるでしょうが、そのような時でさえ、そこには永遠の希望があり、主の愛を担う深い喜びがあったようです。）

ですから私たちも、「天に備えられている」ものをもっと見せていただきましょう。また教えていただきましょう。覚えましょう。福音の確かさと、イエス様の愛を体験させていただきます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2日 土曜

コロサイ



1:9 こういうわけで、私たちもそのことを聞いた日から、絶えずあなたがたのために祈り求めています。どうか、あなたがたが、あらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころについての知識に満たされますように。1:10 また、主にふさわしく歩み、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる良いわざのうちに実を結び、神を知ることにおいて成長しますように。

1:11 神の栄光の支配により、あらゆる力をもって強くされ、どんなことにも忍耐し、寛容でいられますように。

1:12 また、光の中にある、聖徒の相続分にあずかる資格をあなたがたに与えてくださった御父に、喜びをもって感謝をささげることができますように。

1:13 御父は、私たちを暗闇の力から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。

1:14 この御子にあって、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ているのです。

1:15 御子は、見えない神のかたちであり、すべての造られたものより先に生まれた方です。

1:16 なぜなら、天と地にあるすべてのものは、見えるものも見えないものも、王座であれ主権であれ、支配であれ権威であれ、御子にあって造られたからです。万物は御子によって造られ、御子のために造られました。

1:17 御子は万物に先立って存在し、万物は御子にあって成り立っています。

1:18 また、御子はそれからである教会のかしらです。御子は初めであり、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、すべての

ことにおいて第一の者となりました。

1:19 なぜなら神は、ご自分の満ち満ちたものをすべて御子のうちに宿らせ、

1:20 その十字架の血によって平和をもたらし、御子によって、御子のために万物を和解させること、すなわち、地にあるものも天にあるものも、御子によって和解させることを良しとしてくださいましたからです。

その信仰と愛に関して、パウロが感謝するほどのコロサイ教会の人々でしたが、それで完成していたのかというと、そんなことはありません。パウロは、まだ伸びしろとして、彼らが「知識に満たされる」ように、「成長」するように、「寛容でいられる」ように、「感謝をささげることができる」ようにと、願つつ指導しています。私たちも自分には成長の余地があることを喜び、指導を仰いでゆきましょう。

当時はグノーシス主義という教えが流行しており、十字架の福音もその前提で理解しようとする人が影響を及ぼしたようです。それによると霊は善であるが物質は悪であるということです。そして神は様々なものを創造したが、神から離れて生まれたものは、より悪い存在であるということで、物質は神から遠く離れて存在したので悪ということです。

そこではキリストは神によって創造され、他のものと同じく被造物に過ぎないということです。ただ神に近い存在なので、善であるにしか過ぎません。そこでパウロは、この手紙によってイエス様の神であることと、そのご性質と働きを明らかにしています。

ここにある「御子は...始めに生まれた」という表現は気になるところです。キリスト・イエス様は「御父と一つです。」とご自分が神と等しいことを明言され、ご自分が神として礼拝されることを望まれました。ヨハネの福音書には、ロゴスすなわちキリストが、「始めに」あったとその洗剤

性を明記しています。

この「先に生まれた」という表現は、詩篇などから分かるように、「初子」を表しているのです。そしてそれは全てに勝る立場であるという、榮譽に満ちた関係だということです。

そのような特別無比なるお方と親しい愛の交わりができることを、私たちも榮譽と覚えましょう。そしていっそう成長してゆきましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



3日 日曜

コロサイ

1:21 あなたがたも、かつては神から離れ、敵意を抱き、悪い行いの中にありましたが、
1:22 今は、神が御子の肉のからだにおいて、その死によって、あなたがたをご自分と和解させてくださいました。あなたがたを聖なる者、傷のない者、責められるところのない者として御前に立たせるためです。

1:23 ただし、あなたがたは信仰に土台を据え、堅く立ち、聞いている福音の望みから外れることなく、信仰にとどまらなければなりません。この福音は、天の下のすべての造られたものに宣べ伝えられており、私パウロはそれに仕える者となりました。

1:24 今、私は、あなたがたのために受ける苦しみを喜びとしています。私は、キリストのからだ、すなわち教会のために、自分の身をもって、キリストの苦しみの欠けたところを満たしているのです。

1:25 私は神から委ねられた務めにしたがって、教会に仕える者となりました。あなたがたに神のことばを、

1:26 すなわち、世々の昔から多くの世代にわたって隠されてきて、今は神の聖徒たちに明らかにされた奥義を、余すことなく伝えるためです。

1:27 この奥義が異邦人の間でどれほど栄光に富んだものであるか、神は聖徒たちに知らせたいと思われました。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。

1:28 私たちはこのキリストを宣べ伝え、あらゆる知恵をもって、すべての人を諭し、すべての人を教えています。すべての人を、キリ



ストにあって成熟した者として立たせるためです。

1:29 このために、私は自分のうちに力強く働くキリストの力によって、労苦しながら奮闘しています。

「かつては...悪い行いの中にありましたが」と、パウロは言っていますが、コロサイの人々にも色々な人々がいたはずで、悪人ばかりということもないでしょう。それでも私たちが神様を知る前の行動は、神様の聖なるみこころに比べるなら「悪い」というよりほかありません。

今後は「責められるところのない者」となっていくでしょうが、それは自分の罪を忘れてしまうのではなく、自分の罪のために死んでくださったイエス様の「福音」の「土台」があればこそです。決して忘れないようにしましょう。

パウロは「キリストの苦しみの欠けたところ」と言っていますが、それはイエス様の苦しみが不十分だったという意味ではないはずです。神様はイエス様の愛を知った私たちが、愛を動機として、苦しみを受け継いで、そのみわざを進めるように召されているということです。主は私たちに、丁度よい十字架のように、苦しみを残しておいてくださったのです。

それはパウロのように「喜び」に感じられる人にてあり、その目的は「キリスト、栄光の望み」を「余すことなく伝える」ということです。

この栄光ある喜びの苦しみを楽しめる者でありましょう。この世に生きるには苦しみがあります。どうせ苦しみがあるなら、永遠の望みのために生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

